

沖永良部島の繁殖鳥類

中村麻理子・鮫島正道

〒 899-4395 鹿児島県霧島市国分中央 1-12-42 第一幼児教育短期大学内鹿児島県野生生物研究会本部

■ はじめに

鳥類の繁殖生態についての情報は、自然環境の保全という課題に応えるため極めて重要であり、基礎資料としても必要である。特に、地域別の繁殖状況や繁殖の有無に関する現状把握のための確認調査は、広い意味での「鳥類の保護」に通ずるものがある。

鳥類の繁殖生態についての主な論文は、一般記載として黒田(1969)、清棲(1978)、鮫島(1996)、所崎ら(1999)があり、特に繁殖生態についての詳細な記載は、環境庁(1981年)、高ら(1997)、柿澤ら(1999)、小海途ら(2003)がある。繁殖の時期・営巣環境・育雛期間、巣・卵・雛の形態はほとんどの種で明らかにされている。しかし、地域別の詳細な情報は少なく、さらに島嶼別での確認事例は断片的である。

今回、鹿児島県の沖永良部島で2年間滞在する機会を得、鳥類の繁殖状況を観察・確認した。本報告では可能な範囲内での確実な記録として、絶滅危惧種に指定されているツミ・ミフウズラ・ヒクイナ・セイタカシギの4種を含む19種の繁殖鳥類が確認された。沖永良部島で繁殖する鳥類について生態写真を添えてここに報告する。

■ 材料と方法

調査期間は、2008年4月～2010年3月までの2年間である。調査範囲は沖永良部島全域とした。

Nakamura, M. and M. Sameshima. 2011. Birds reproducing themselves in Okinoerabu-jima Island, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 37: 9-16.

✉ Kagoshima Wildlife Research Association, Daiichi Junior College for Infant Education, 1-12-42 Kokubu-chuou, Kirishima, Kagoshima 899-4395, Japan (e-mail: MN, naka_tatsu@po3.synapse.ne.jp).

今回の調査における繁殖鳥類としての判断基準は、自然環境保全基礎調査(環境庁, 1981年)で定められた繁殖可能性の判定基準(表1)に準拠した。今回の調査では、繁殖鳥類としては判定基準 a,b,c のランク区分(a:繁殖確認, b:繁殖の可能性はある, c:繁殖期に生息を確認したが繁殖については不明)までとした。

沖永良部島での巣の状況を把握するため巣の構造・巣材・巣の場所・営巣環境についてデータを記録した。観察や写真記録については、繁殖行動の障害にならないように最小限にとどめるよう細心の注意を払った。報告した鳥類の種名・学名、分類体系は「日本産野生生物目録」(環境庁, 1993)に準拠した。

■ 調査結果

1. 繁殖の状況

調査の結果、繁殖した種は9目17科19種(aランク)、繁殖の確認はできなかったが繁殖の可能性のある種は1目1科2種(bランク)、繁殖期に生息を確認したが繁殖については不明な種は6目6科8種(cランク)であった(表2)。以下に観察した a・b ランクの結果と、生態写真を図1(但しアオバズクは2010年の記録写真を使用)に、生態写真の確認位置を図2に提示し、c ランクについてはその他の種として略記した。

(I) サギ科(コウノトリ目)

1) クロサギ

Egretta sacra sacra (Gmelin, 1789): a ランク

成鳥の巣材運び・巣に出入りする行動を観察し繁殖確認と判定した。巣材は砂浜に打ち上げられた枝で、沖合の消波ブロックの隙間や岩壁に運

んでいた。営巣環境は海岸の岩壁の棚や隙間である。

(2) タカ科 (タカ目)

1) ツミ

Accipiter gularis (Temminck et Schlegel,1844) : a ランク

成鳥の威嚇行動や餌運び・巣・幼鳥を観察し繁殖確認と判定した。巣は枯れ枝を組み合わせた皿形の構造で、モクマオウの枝上にあった。営巣環境は海岸沿いにあるモクマオウの防風林やリュウキュウマツの樹林である。繁殖行動は5月上旬から9月下旬まで観察された。

(3) キジ科 (キジ目)

1) キジ

Phasianus colchicus Linnaeus,1758 : a ランク

成鳥が巣の周辺を出入りする行動、巣立ち後の巣を観察し繁殖確認と判定した。巣は地上のく

ぼみに枯れ草などを敷いた簡単な構造で、営巣環境は農耕地の草地である。3月下旬から繁殖行動が観察された。

(4) ミフウズラ科 (ツル目)

1) ミフウズラ

Turnix suscitator okinavensis Phillops,1947 : a ランク

巣・卵・巣立ち後の雛を観察し繁殖確認と判定した。巣は地上のくぼみに枯れ草などを敷いた簡単な構造で、営巣環境は農耕地のサトウキビ畑である。7~8月に親鳥と移動する雛を頻繁に観察した。

(5) クイナ科 (ツル目)

1) ヒクイナ

Porzana fusca (Linnaeus,1776) : a ランク

成鳥が営巣環境で繰り返し出入りする行動や鳴き声を観察し繁殖確認と判定した。確認環境は

表 1. 繁殖可能性の区分及び判定事項.

ランク	判定基準	観察事項	
a	繁殖を確認した	成鳥について	成鳥が巣あるいは巣のあるらしい所にくりかえし出入りしている。 成鳥が抱卵又は抱雛している。あるいはしているようだ。 成鳥が巣のあるらしい所にとびこむと同時にヒナの乞餌声がかかれた。 成鳥がヒナのフンを運搬している。 成鳥が明らかに同一サブメッシュ内にある巣のヒナに餌を運搬している(餌をくわえたまま観察者を警戒し移動する気配のない場合を含める)。 擬傷をみた。
		巣について	巣立ち後の巣がある。ただし 1974 年以降に使用された巣であること。
		卵について	卵のある巣をみた。 成鳥がおちついてすわっている巣の近くで、その種の卵殻がみつかった。
		ヒナについて	ヒナのいる巣をみた。 ヒナの声をきいた。
		巣立ちヒナについて	巣からほとんど移動していないと思われる巣立ちヒナをみた。
b	繁殖の確認はできなかったが繁殖の可能性がある	成鳥について	その種が営巣しえる環境で繁殖期に、その種の囀り(キツツキ類のドラミングを含める)を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。 求愛行動をみた。ただしその鳥が、冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。 交尾行動をみた。ただしその鳥が、冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。 威嚇行動、警戒行動により、付近に巣又はヒナの存在が考えられる。 巣があると思われる所に成鳥が訪れた。ただし、そこが罾である場合は除く。 造巣行動(巣穴掘りを含む)を見た。
		巣について	成鳥が巣材を運搬している。ただし、明らかに同一サブメッシュ内に巣を構えていると思われる場合に限る。 成鳥がヒナへの餌を運搬しているが、巣が同一メッシュ内にあるかどうかわからない。
		巣立ちヒナについて	巣を発見したが、卵、ヒナともなく、成鳥がそこに来るのを認めなかった。ただし 1974 年以降に造られた巣であること。
		巣立ちヒナについて	かなり移動可能と思われる巣立ちヒナをみた。家族群をみた。
c	生息を確認したが繁殖については何ともいえない	成鳥について	その種が営巣しえる環境で繁殖期に、その種を確認したが、他には繁殖の徴候が認められない。

備考 1. 環境庁の自然環境保全基礎調査(鳥類)「日本産鳥類の繁殖分布」(環境庁, 1981 年)を一部改変(ランク d,e,f を割愛)。

湿地や溜池周辺の草地である。

2) シロハラクイナ

Amaurornis phoenicurus chinensis (Boddaert,1783) : a ランク

求愛行動や巣立ち雛を観察し繁殖確認と判定した。確認環境は周囲が樹林に囲まれた溜池である。4月上旬には溜池や湿地で頻りに観察し、8月中旬に親鳥と移動する雛が確認された。

3) バン

Gallinula chloropus indica Biyth,1842 : a ランク

成鳥が巣に出入りする行動・交尾行動・造巣行動・抱卵・巣・卵・雛を観察し繁殖確認と判定した。巣はヒメガマの葉や茎を折り曲げ厚みのあるお椀形やコップ形の構造で、営巣環境は湿地や溜池などである。4月下旬から雛が観察され、造

巣する行動は9月上旬にも観察された。

(6) チドリ科 (チドリ目)

1) シロチドリ

Charadrius alexandrinus Linnaeus,1758 : a ランク

成鳥が巣に出入りする行動・擬傷・卵・巣立ち雛を観察し繁殖確認と判定した。巣は砂地に浅い窪みを造り、産座に貝殻の小破片・小石・小木片を敷いた簡単な構造で、営巣環境は砂浜である。4月中旬に親鳥と移動する雛が確認され、親鳥の擬傷が観察された。

(7) セイタカシギ科 (チドリ目)

1) セイタカシギ

Himantopus himantopus himantopus (Linnaeus,1758) : a ランク

抱卵・抱雛・威嚇行動・警戒行動・巣・卵・

表2. 鳥類の一覧と繁殖可能性の判定結果.

目名	科名	種名	学名	aランク 繁殖確認	bランク 繁殖の可 能性あり	cランク 繁殖不明
コウノトリ	サギ	リュウキュウヨシゴイ	<i>Ixobrychus cinnamomeus</i> (Gmelin,1789)			*
		クロサギ	<i>Egretta sacra sacra</i> (Gmelin,1789)	*		
カモ	カモ	カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha zonorhyncha</i> Swinhoe,1866			*
タカ	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus haliaetus</i> (Linnaeus,1758)			*
		ツミ	<i>Accipiter gularis</i> (Temminck et Schlegel,1844)	*		
キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i> Linnaeus,1758	*		
ツル	ミフウズラ	ミフウズラ	<i>Turnix suscitator okinawensis</i> Phillops,1947	*		
	クイナ	ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i> (Linnaeus,1776)	*		
		シロハラクイナ	<i>Amaurornis phoenicurus chinensis</i> (Boddaert,1783)	*		
		バン	<i>Gallinula chloropus indica</i> Biyth,1842	*		
チドリ	チドリ	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i> Linnaeus,1758	*		
	セイタカシギ	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i> (Linnaeus,1758)	*		
ハト	ハト	カラスハト	<i>Columba janthina</i> Temminck,1830		*	
		キジハト	<i>Streptopelia orientalis</i> (Latham,1790)	*		
		ズアカアオハト	<i>Sphenurus formosae</i> (Swinhoe,1863)		*	
フクロウ	フクロウ	コノハズク	<i>Otus scops</i> (Linnaeus,1758)			*
		アオバズク	<i>Ninox scutulata</i> (Raffles,1822)	*		
ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i> (Latham,1790)			*
		カワセミ	<i>Alcedo atthis bengalensis</i> Gmelin,1788	*		
スズメ	ツバメ	リュウキュウツバメ	<i>Hirundo tahitica namiyei</i> (Stejneger,1887)	*		
	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i> (Raffles,1822)			*
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i> (Temminck,1830)	*		
	ツグミ	イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius philippensis</i> (Muller,1776)	*		
	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i> (Kittlitz,1831)			*
		セッカ	<i>Cisticola juncidis bruniceps</i> (Temminck et Schlegel,1850)	*		
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i> (Eyton,1839)			*
	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i> Temminck et Schlegel,1847	*		
	ハタオリドリ	スズメ	<i>Passer montanus saturatus</i> Stejneger,1885	*		
	カラス	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i> Wagler,1827	*		

備考1. 種名, 分類体系は「日本産野生生物目録」(環境庁, 1993) による。

19種 2種 8種

備考2. 種名は種レベルで記載した。

備考3. 形態・生態で亜種として識別できたものは [0は亜種名], キジハト (リュウキュウキジハト), ズアカアオハト (リュウキュウズアカアオハト), コノハズク (リュウキュウコノハズク), サンショウクイ (リュウキュウサンショウクイ), メジロ (リュウキュウメジロ), ハシブトガラス (リュウキュウハシブトガラス) である。

備考4. 著者が形態・生態で亜種として識別できないものは [0は亜種名], ツミ (リュウキュウツミ), ヒクイナ (リュウキュウヒクイナ), アオバズク (リュウキュウアオバズク), アカショウビン (リュウキュウアカショウビン), ヒヨドリ (アマミヒヨドリかリュウキュウヒヨドリ), ウグイス (リュウキュウウグイス), サンコウチョウ (リュウキュウサンコウチョウ) である。



図1. 生態写真. ①巣材を運ぶクロサギ. 和泊, 2009年5月18日. ②ツミの巣と幼鳥. 西原, 2009年9月23日. ③ミフウズラの卵. 後蘭, 2008年5月11日. ④シロハラクイナの雛と親鳥. 後蘭, 2009年8月19日. ⑤パンの卵と雛. 谷山, 2009年7月20日. ⑥シロチドリ. 古里, 2009年4月28日. ⑦セイタカシギの抱卵. 谷山, 2009年6月9日. ⑧キジバトの抱卵. 西原, 2009年10月17日. ⑨アオバズクの幼鳥と親鳥. 瀬利覚, 2010年7月17日. ⑩カワセミの幼鳥に給餌する親鳥. 後蘭, 2008年6月10日. ⑪リュウキュウツバメの巣と雛. 下平川, 2009年4月29日. ⑫餌を運ぶイソヒヨドリ. 知名, 2009年4月23日. ⑬メジロの巣. 根折, 2008年5月11日. ⑭スズメの幼鳥に給餌する親鳥. 知名, 2009年5月25日. ⑮ハシトガラスの巣と幼鳥. 後蘭, 2009年7月16日.

雛を観察し繁殖確認と判定した. 巣は水中に泥や小石等を積み上げ, 産座に木の枝や水草を敷いた皿形の構造で, 営巣環境は湿地である. 6月上旬に卵を確認し, 7月中旬には幼鳥の飛翔行動が観察された.

(8) ハト科 (ハト目)

1) カラスバト

Columba janthina Temminck, 1830 : b ランク

成鳥が営巣環境を出入りする行動, ディスプレイフライト等の求愛行動を観察し繁殖の可能性

があると判定した。確認環境はスダジイ群落の常緑広葉樹林である。

2) キジバト

Streptopelia orientalis (Latham,1790) : a ランク

キジバトは亜種リュウキュウキジバトの事である。抱卵やディスプレイフライト等の求愛行動を観察し繁殖確認と判定した。巣は枯れ枝を組み合わせた皿形の構造で枝上にあった。営巣環境は農耕地に点在する樹林・畑地境界植生・防風林などである。抱卵は10月に入ってからも観察された。

3) ズアカアオバト

Sphenurus formosae (Swinhoe,1863) : b ランク

ズアカアオバトは亜種リュウキュウズアカアオバトの事である。求愛行動を観察し繁殖の可能性があると判定した。確認環境は常緑広葉樹林や農耕地にある樹林である。

(9) フクロウ科 (フクロウ目)

1) アオバズク

Ninox scutulata (Raffles,1822) : a ランク

巣立ち雛と家族群を観察し繁殖確認と判定した。営巣環境は集落に生育しているアコウの巨樹である。

(10) カワセミ科 (ブッポウソウ目)

1) カワセミ

Alcedo atthis bengalensis Gmelin,1788 : a ランク

餌を運ぶ行動・給餌行動・家族群を観察し繁殖確認と判定した。確認環境は周囲を土手と樹林に囲まれた水辺である。

(11) ツバメ科 (スズメ目)

1) リュウキュウツバメ

Hirundo tahitica namiyei (Stejneger,1887) : a ランク

成鳥が巣に出入りする行動・餌を運ぶ行動・給餌・巣・雛を観察し繁殖確認と判定した。巣は土や枯れ草を使った椀形の構造で、建造物の壁に付いた状態であった。営巣環境は人家や体育館等の建造物の軒である。4月下旬に巣立ちを観察し、繁殖行動は7月下旬まで観察された。

(12) ヒヨドリ科 (スズメ目)

1) ヒヨドリ

Hypsipetes amaurotis (Temminck,1830) : a ランク

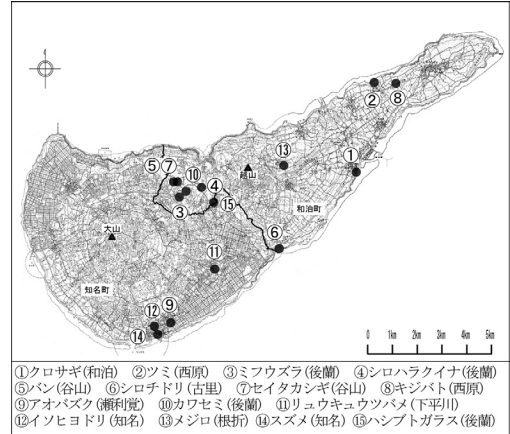


図2. 生態写真の確認位置 (番号は図1の①～⑮の番号と対応する)。

餌を運ぶ行動・巣立ち後の巣を観察し繁殖確認と判定した。巣は枯れ草や小枝などを組み合わせた椀形の構造で枝上にあった。営巣環境は農耕地にある樹林・防風林・畑地境界植生などである。

(13) ツグミ科 (スズメ目)

1) イソヒヨドリ

Monticola solitarius philippensis (Muller,1776) : a ランク

成鳥が巣に出入りする行動・巣材や餌を運ぶ行動・雛の声を観察し繁殖確認と判定した。巣は枯れ草や枝などを使い建造物の隙間にあった。営巣環境は岩礁の岩場や建造物の隙間などである。3月中旬から巣材運びが観察され4月中旬には雛の鳴き声が観察された。

表3. 繁殖環境と確認鳥類。

環境	種名
樹林	ツミ, カラスバト, キジバト, ズアカアオバト, コノハズク, サンショウクイ, ヒヨドリ, ウグイス, サンコウチョウ, メジロ, ハシブトガラス, アカショウビン
草地	セッカ, ミフウズラ
湿地・溜池	リュウキュウヨシゴイ, カルガモ, ヒクイナ, シロハラクイナ, バン, セイタカシギ
河崖	アカショウビン, カワセミ
砂浜	シロチドリ
岩礁	クロサギ, ミサゴ, イソヒヨドリ
畑地	キジ, ミフウズラ
宅地・公園	アオバズク, リュウキュウツバメ, イソヒヨドリ, メジロ, スズメ



図3. 樹林環境.



図5. 砂浜環境.



図4. 湿地環境.



図6. 畑地環境.

(14) ウグイス科 (スズメ目)

1) セッカ

Cisticola juncidis bruniceps (Temminck et Schlegel, 1850) : a ランク
餌を運ぶ行動や巣立ち後の幼鳥を観察し繁殖確認と判定した。確認環境は農耕地の草地・サトウキビ畑・溜池周辺の草地などである。

(15) メジロ科 (スズメ目)

1) メジロ

Zosterops japonicus Temminck et Schlegel, 1847 : a ランク
メジロは亜種リュウキュウメジロの事である。成鳥が巣に出入りする行動・巣を観察し繁殖確認と判定した。巣は枯れ草を組み合わせた椀形の構造で木の枝にぶら下がっていた。営巣環境は宅地の庭木・道路脇の樹木・畑地境界植生・防風林などである。

(16) ハタオリドリ科 (スズメ目)

1) スズメ

Passer montanus saturatus Stejneger, 1885 : a ランク
成鳥が巣に出入りする行動・巣材を運ぶ行動・巣・給餌行動を観察し繁殖確認と判定した。巣材

は小枝・枯れ草等で、営巣環境は人家の屋根の間や隙間、法面の水貫パイプの中などである。

(17) カラス科 (スズメ目)

1) ハシブトガラス

Corvus macrorhynchos Wagler, 1827 : a ランク
ハシブトガラスは亜種リュウキュウハシブトガラスの事である。成鳥が巣に出入りする行動・巣材を運ぶ行動・給餌行動を観察し繁殖確認と判定した。巣は枯れ枝を組み合わせた椀形の構造で枝上にあり、営巣環境は樹林地である。

(18) その他の種

c ランクとして繁殖の可能性があるリュウキュウヨシゴイ・カルガモ・ミサゴ・コノハズク(亜種リュウキュウコノハズク)・アカショウビン・サンショウクイ(亜種リュウキュウサンショウクイ)・ウグイス・サンコウチョウの8種を繁殖期に営巣環境で確認する事ができたが、観察の範囲内で主な繁殖の徴候は認められず繁殖不明と判定した。

2. 繁殖環境の選択

鳥類は繁殖する環境を選択する。種によって選択要求が強い種と弱い種があるが、繁殖環境として利用する環境はそれぞれ異なる。沖永良部島は面積が約 95 km² で大部分が隆起珊瑚礁でおおわれた平坦な島であり、自然植生は少なく平地や低山地は農耕地や集落地になっている。かつて水田があった場所は畑地となり湿地は少ないが、農業が主な産業の島内には農業用の溜池が大小 100 箇所以上ある。

確認された繁殖鳥類を大まかに環境別に区分した。繁殖環境と観察された鳥類を表 3 に、島内の代表的な繁殖環境を図 3～6 に示す。

樹林は繁殖環境として最も利用しており、特に農耕地に点在する樹林が利用されていた。農地として利用度が低く残された樹林、防塩・防風・防砂の役割がある畑地境界の植生は、移動経路・餌場・休息場・隠れ場・営巣地として利用されていた。草地は、農耕地内の草地在り特に利用されていた。湿地や溜池などの水辺では水鳥が繁殖し、特に越山と大山に挟まれた低地にある湿地帯で観察された。農業用溜池の主なものシート張りで、休息場所としての利用が多かった。水を張ったタイモ畑(タイモは郷土料理として利用)が水鳥の餌場・休息場・営巣地となっていた。海岸では、ポケットビーチ(岩礁と岩礁の間にある砂地)でシロチドリが繁殖し、岩礁をクロサギやイソヒヨドリが利用していた。畑地のサトウキビ畑では育雛期のミフウズラが頻りに観察された。集落地ではアコウやガジュマルの大木(巨樹)をアオバズクが利用し、建造物の軒をリュウキュウツバメが、隙間などをスズメやイソヒヨドリが利用していた。集落地に隣接する農耕地は採餌場所として利用されていた。

3. 絶滅が危惧されている種

環境省編「日本の絶滅のおそれのある野生生物」と、鹿児島県の「鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物」のレッドデータブック(以下 RDB とする)に掲載されている種として、リュウキュウヨシゴイ(県 RDB: 絶滅危惧Ⅱ類)・ミ



図 7. 湿地の遷移の状況(上: 2009 年 8 月 13 日, 下: 2010 年 9 月 19 日)。

サゴ(国・県 RDB: 準絶滅危惧)・ツミ(県 RDB: 情報不足)・ミフウズラ(県 RDB: 絶滅危惧Ⅱ類)・ヒクイナ(国 RDB: 絶滅危惧Ⅱ類)・セイタカシギ(国・県 RDB: 絶滅危惧Ⅱ類)・カラスバト(国・県 RDB: 準絶滅危惧)の 7 種が確認された。この中でツミ・ミフウズラ・ヒクイナ・セイタカシギの繁殖を確認した。

■ 考察

繁殖鳥類が 19 種確認され、大幅に増加した。これまでの確認種が低調であった理由は、長期滞在が可能な専門家や調査員の不在、発見や確認が困難な場所に営巣する種の把握が出来なかった事が挙げられる。また、一般的に言われている温暖化の影響で南方系の動物の繁殖分布が北上し、これまで繁殖例がない鳥類の繁殖などにより、追加・変更され確認種が増大するものと思われる。

繁殖環境として利用された樹林は、鳥類の移動経路や生息空間として注目されている農耕地内のヘッジロウ(耕地境界部に作られる線状あるいは帯状の平面形を持った樹木の植栽)で、島内の繁殖鳥類にとっても重要であると考えられる。また、点在する樹林地が飛び石ビオトープとなり、移動を助ける役割を担っていると推測される。

水辺環境を利用する水鳥にとって湿地の嗜好性は、底質が餌生物の生息に適した砂泥質であるかどうかが大きく影響していると考えられる。繁殖鳥類の多い湿地は、浅い水辺や陸地がある多様

な環境、捕食者が進入できない環境そして餌が豊富な環境であり、このような条件が揃うと繁殖適地になると思われる。しかし開けた湿地を好む種にとっては、遷移が進むと繁殖適地ではなくなる可能性がある。例えば繁殖が確認されたセイタカシギは、工事の一時的な攪乱や改変によって作り出された開けた湿地であったため繁殖したが、翌年遷移が進み一面に湿性植物のヒメガマが繁茂したため繁殖が確認されていない(図7)。このような種の繁殖を望むのであれば、この湿地の場合では繁茂した植物を排除する人為的攪乱(管理)が必要になってくると考えられる。

畑地一帯に広がるサトウキビ畑は人目に付きにくい良好な隠れ場所となり、ミフウズラの繁殖適地である。畑地や周辺部の裸地が多い環境では目撃する事が少なく、反対に草場が豊富な場所は目撃例も多く隠れ場所や餌が確保できるので好まれるのではないかと考えられる。タイモ畑は水を張ることによって浅い水辺となり、このような環境を好む鳥類の餌場・休息・営巣地となるので、島内では貴重な湿地環境になっていると考えられる。

集落地を利用する繁殖鳥類にとって集落に隣接して農耕地が広がる環境は、餌場が近く良好な繁殖環境であると思われる。

今回の報告として、沖永良部島において4種の絶滅危惧種の繁殖を確認している。一般的に、これら絶滅危惧種は生息環境の減少や悪化が原因とされ、対策や改善が求められている。生態系の中で、栄養段階の上位に位置する動物食の鳥類は、多様な餌生物を必要とする。そのためにも餌生物が豊富な湿地環境や自然豊かな環境が求められている。

現在、野生生物の保全や保護のために、国際法や国内法が整備され、各種の開発行為に対し「環境に配慮した」工法や考え方が浸透しつつある。多様な自然を残すことで、繁殖鳥類にとって持続可能な沖永良部島として存続することが望まれる。

■ 謝辞

本調査においてご協力頂いた田中伸一氏、沖永良部在住の大内山秀樹氏、新納忠人氏に対し厚くお礼申し上げます。

■ 引用文献

- 柿澤亮三・小海途銀次郎(1995)日本の野鳥―巣と卵図鑑。世界文化社、東京。
- 清棲幸保(1978)日本鳥類大図鑑 I-II。講談社。
- 小海途銀次郎・和田岳(2003)日本鳥の巣図鑑。大阪市立自然史博物館、大阪。
- 黒田長久(1969)鳥類の研究―生態―新思潮社、東京。
- 森岡弘之・中村登流・樋口広芳(1989)現代の鳥類学。朝倉書店、東京。
- 鮫島正道(1995)東洋のガラバゴス 奄美の自然と生き物たち。南日本新聞社。
- 鮫島正道(1996)奄美の自然。鹿児島県の自然調査事業報告書 III。鹿児島県立博物館。
- 高美喜男・恵沢岩生・岩元さよ子・斉藤康治(1997)奄美の野鳥 奄美野鳥の会。
- 所崎聡・山元幸夫(1999)鹿児島県立博物館研究報告(18号):21-42。
- 山岸哲・森岡弘之・樋口広芳監修(2004)鳥類学辞典。昭和堂、東京。
- 鹿児島県環境生活部環境保護課編(2003)鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編。財団法人 鹿児島県環境技術協会。
- 環境省自然環境局野生生物課編(2004)改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物―レッドデータブック-2 鳥類。財団法人 自然環境研究センター。東京。